



Soba Choko Art

Soba Choko Art 第6回 そば猪口アート公募展

総評

公募展として第6回目となる今年、日本の28都道府県をはじめ海外の210人から作品が寄せられ、総計210点の応募があった。これは昨年に比べると若干応募点数が減ったことになるが、一人で二組みまで応募できた昨年までと違い、今年は一人一組の応募とさせていただいた結果である。

年齢も20代から80代までと幅広く、力作が寄せられた。特に今年は20代から30代の若手の作品が多く、この展覧会が若いクリエイターに認知されてきたことは、嬉しい限りである。

審査員一同作品の前に静かに佇み、真剣に対峙し、その作品が醸し出すエネルギーを感じる事に時間を費やした。6回目となる今回は作品一点一点がその良さを主張し、強いメッセージを投げかけてくる。

入選となった作品と選外の差は、僅差であった。他の様々な展覧会などでは十分に評価される作品が選外になり、飾れない作品が多いのは実に申

し訳ないと思う。

受賞審査にはより多くの時間を費やした。最後まで残ってくる作品は個性的であり、創造性、造形性、表現力、感性、技術力などどれも優れている。多くの候補作品の中から、絞り込むのに何回もの投票を繰り返した。最後には審査員一人一人が、それぞれのどこが優れているかを語り合い、受賞作品を決定した。

この展覧会は今年から、東京の世田谷にある平成記念美術館 ギャラリーにての巡回展も決まり、愛知県瀬戸市、山形県白鷹町と日本各地を巡回する。安曇野高橋節郎記念美術館だけでなく、各地で多くの方に見て頂き、「Soba Choko Art」という器が日本のみならず、世界各国の共通の『器の美』であることを発信していきたい。(三田村有純)



大賞

7.3×7.3×6.7 cm

red&yellow

松本光治 1950年 / 長野県

〈銅・真鍮 / 接ぎ合わせ・鍍金〉

＊「金属美」と「持ちやすさ」から作成しました。

【選評】銅と真鍮の継ぎ合わせ技法による確かな鍍金技術を用い、独創的な面構成と、スマートな造形を完成させている。自身が語る「金属美」を追求し続ける姿と、個人的な妄想とか道楽ではない表現域が観る側に喚起力豊かに力強い様相となって語りかけてくる。(評：木下五郎)

準大賞

径 8.0×8.0 cm



夕景 井之下 翔 1991 年 / 長野県

(ガラス / 吹きガラス)

木々と夕日が綺麗に見えた。

〔選 評〕 底部のみアンバー色をつけ、側面にはモスグリーンを被せて、その上に細い透明ガラス棒をランダムに巻き取って木立の風景を表している。自然でさりげない器でありながら、底部まで丁寧に仕上げられており、作者の高い技術と感性、そして知性を感じる。(評：藤田 潤)

優秀賞

径 8.1×8.1 cm



花 今井美幸 1984 年 / 東京都

(漆 / 乾漆)

光と花をイメージして制作しました。

〔選 評〕 全体を乾漆で造形し、口作りは極薄くした上に内外とも和紙が貼られている。その上に赤系の漆を薄く塗り込み、最後に金消し粉を薄く蒔き、漆の持つ半艶の魅力の上に金属的な質感を加味した表現力は秀逸である。底の高台を彫り込むなど細部に迄行き届いた造形美は作者の高い美意識を感じさせる。優しく日の光を受けた花の命を高い技術力でまとめあげた秀作である。(評：三田村有純)

優秀賞

7.5×7.5×7.0 cm



白磁彫紋 そば猪口 影山 誠 1969 年 / 愛知県

(ろくろ・彫)

彫りのみのシンプルな装飾により静かなたたずまいを目指しました。

〔選 評〕 シリンダー型の一對の猪口である。彫でしのぎ風の揺らぎ模様と、迷路の通り道を閉じたような幾何学的模様を表わしている。ろくろによるシンプルで美しい形と、モダンな模様が絶妙の対照を見せる。さらに曲線と直線による四角形模様の対比がより一層お洒落な空間を作り出す。(評：金子賢治)

特別賞

8.5×13.5×8.0 cm



越冬水鳥猪口 小泉奈津美 1986 年 / 茨城県

(陶 / 鉢込み)

湖で羽を休める白鳥をイメージして制作しました。

〔選 評〕 安曇野はシベリアから越冬のため白鳥が多数飛来する。それをモチーフとして、湖で羽を休める白鳥をイメージして制作された作品である。角張った小さめの頭部と対照的にたっぷり大きく広がった胴体（器本体）が強靱な印象的なフォルムを作り出す。白鳥の胸の位置から尾の先端まで一気に上がっていくしのぎ風の分水嶺の尖り方がこの作品のモダンでお洒落なスタイルを決定的なものにしている。こうした緊張感のある形は磁器の鉢込みみならぬもので、モチーフ、技法、形のセンスが一体となって作り出された極めて現代的な作品である。(評：金子賢治)

特別賞

7.1×7.1×6.1 cm



乾漆螺鈿蒔絵猪口「本立」 佐野圭亮 1994年/群馬県

〈漆/乾漆・螺鈿・蒔絵〉

初夏の安曇野の森をテーマに生命力を溢れさせる木々の幹とその間を気持ちよく吹き行く風をモチーフに制作いたしました。

〔選 評〕 伏せ彩色された青貝が4本細かく貼られ、本立を表している。残された4つの空間には金平目粉が暈かし蒔きされて、本立の間を流れる爽やかな風をイメージさせている。初夏の安曇野の森の生命力をすきとした乾漆造形の上に表現し、内側には貝が貼られて、銀の銚が置かれている装飾は作者の細やかな美の表現力を感じさせる優作である。(評：三田村有純)

特別賞

7.6×7.6×5.8 cm



雪どけ 滝本汐里 1993年/愛知県

〈磁/鑄込み〉

芽吹きを待つ安曇野の蕎麦畑を表現しました。五感で味わう器です。

〔選 評〕 「雪どけ」とは、春の音がそろそろ聞こえ始めた安曇野で、蕎麦畑でいよいよ芽吹きの瞬間を待つだけになった頃を意味する。その大地の抑揚のある柔らかい起伏と純白の色を小さな世界の中で見事に表現している。この抑揚豊かな表現は鑄込み技法の特徴をよく吟味し、掘んだうえでのもので、実にうまい。酸化と還元をうまく調整し、ベイルブルーとクリーム色に発色させ、初春の寒さと陽だまりの対比のような表現に成功したことに感心する。(評：金子賢治)

審査員賞

径 7.5×6.7 cm



光 清水 愛 1979年/京都府

〈漆/本堅地・きんま・呂色仕上〉

漆黒に淡く光がのぼっていく。人のはかない希望の光を表現しました。

〔選 評〕 柔らかく丸みのある形は魅力的であり、内外とも黒漆で呂色上げされた漆黒の美は見る者の目を引きつける。外側には32本の細い線が彫られている。その溝の中に色漆が入れられ、下側から上に向かって青色から黄色に暈して表現されている。きんま技法にて表現された線状の光と、呂色面に映り込む光は未来を映し出し、魅力的である。

(評：三田村有純)

審査員賞

8.0×8.0×7.0 cm



絢 清水美由希 1972年/富山県

〈陶/ろくろ・泥彩〉

花開く瞬間を織物に取り込んだようなイメージで制作しました。

〔選 評〕 ろくろの快いリズム感、小さな高台から美しいアウトラインを描きながら口縁まで上がって行くフォルムの潔さ。実にモダンな感覚を持った作品である。「花咲く瞬間を織物に取り込んだようなイメージ」という作者の意図は、形に添い、その良さを強調する掻き落としの線状文が余すところなく表現している。(評：金子賢治)

審査員賞

8.3×8.3×6.0 cm



彫溜塗そば猪口 中田陽平 1982 年 / 香川県

〈漆 / 彫漆・溜塗・拭き漆仕上げ〉

香川県の技法である彫漆のやり方で漆を塗り重ねて側面の彫削あとを残して手触りを面白くしています。愛でて頂ければ幸いです。

〔選 評〕 ろくろ造形の上側を薄く削り、たっぷりとした造形とする。内側は朱溜塗を磨き上げ、奥深い艶で仕上げる。外側は朱漆を塗り重ねた上に透明の漆を塗り、丁寧に線状に彫り込む。彫漆としての質の上に摺漆を何回も重ねて、磨き込むことによって表現された世界は実に存在感がある。(評：三田村有純)

審査員賞

8.7×8.7×5.6 cm



GEMME 古川千夏 1993 年 / 広島県

〈七宝 / 有線七宝・鍍金〉

安曇野の澄んだ川、キラキラと輝く水面をイメージして制作しました。

〔選 評〕 純銀を軽やかに鍛造し、器の測定面に有線七宝技術を用い、エナメルを焼き付け、「私の宝石」を夢想しつつ、さわやかな表現が魅了する。「安曇野の澄んだ川、キラキラと輝く水面」と添えた作者は、昨年の第5回展の出品作品が準大賞に輝いた常連でもある。小さな世界の大きな覚悟が伝わってくる底知れぬ力を秘めている。(評：木下五郎)

審査員賞

8.0×8.0×7.0 cm



ゆらめき 山本弥生 1964 年 / 東京都

〈ガラス / サンドブラスト〉

光と炎のゆらめきを表現いたしました。

〔選 評〕 薄手の透明ガラスにマスキングをしてサンドブラストという技法で模様を削っている。各々に静と動の極めてデザイン化された模様が施されていて、エレガントな作品である。(評：藤田 潤)

雪の花

夏の暑さを涼しくできるよう、雪の透明感ときらめきを表現しました。

明石朋実

1990 年 / 愛知県

7.9×7.9×7.6 cm

〈磁 / ろくろ〉



閃刻彩そば猪口「放」

持ち易い、スタッキングし易い形状にそばの色を引き立てる黒、そこから光が放たれる事をイメージしました。

明石竜太郎

1971 年 / 千葉県

10.0×10.0×7.5 cm

〈陶 / ろくろ・彫・プラチナ彩〉





monotone

2種類の土の白さの違いで柄を表現しました。

足立 喜子

1965 年 / 岐阜県

4.0×8.8×7.0 cm / 4.3×9.4×8.2 cm

〈磁 / 練り込み〉



赤絵金彩そば猪口

そばを食する場をハレの場にするために。

石井 宏志

1955 年 / 兵庫県

8.0×8.0×7.8 cm

〈磁 / 上絵赤に金箔焼きつけ〉



煌彩天目そば猪口

今日の気分は丸それとも角
おいしいおそばをお好きな形でどうぞ。

井筒 敏彦

1963 年 / 京都府

9.3×9.3×8.3 cm / 9.0×9.0×8.8 cm

〈陶 / ろくろ〉



ナガレ

線で流れを作りそれぞれ違う形の線にして
流れを表現しました。

伊藤 竜也

1988 年 / 京都府

10.7×9.8×7.9 cm

〈磁 / ろくろ〉



青白磁彫文蛭手そば猪口

青白磁を生かした作品を作りたいかった。

江口 功

1980 年 / 愛知県

8.5×8.5×6.5 cm

〈磁 / 彫文・蛭手〉



彩瓷そば猪口

石の様なゴツゴツとした質感を目指して
作成しました。

太田 雪輝

1977 年 / 東京都

8.3×8.3×7.8 cm

〈陶 / 還元焼成〉



水 流

安曇野の水をイメージしモノトーンで
表現しました。

落合 史朗

1957 年 / 東京都

9.0×9.0×6.6 cm

〈陶 / たたら〉



練込 そば猪口

雪解けの水が引となり、その水で育った
ソバの味を思い浮かべてつくりました。

小野 千鶴

神奈川県

11.0×11.0×6.5 cm

〈陶 / 練り込み〉



虹の光

空にかざすの虹のあいだから
光がこぼれます。

梶間智絵

1986 年 / 京都府

7.5×7.5×6.0 cm

〈磁 / 鑄込み〉



涼線猪口

品のある線を追い求めました。

河原卓也

1990 年 / 東京都

8.3×8.3×7.8 cm

〈陶 / 象嵌〉



新 緑

自然に恵まれた安曇野をイメージしました。

木口泰広

1985 年 / 長野県

6.8×7.5×6.0 cm

〈陶 / ろくろ〉



さんごそば猪口

さんごをイメージして作成しました。

栗林みどり

1982 年 / 東京都

7.5×7.5×5.4 cm

〈磁 / 鑄込み〉



象嵌幾何文蕎麦猪口

幾何学模様を象嵌により施した
独特な雰囲気を持ったそば猪口。

小林聖生

1980 年 / 長野県

8.5×8.5×6.5 cm / 8.8×8.8×6.0 cm

〈陶 / 象嵌〉



安曇野の風と水

安曇野のさわやかな風と清らかな水を
イメージしてみました。

坂口 禮子

1941 年 / 長野県

8.0×8.0×6.3 cm

〈陶 / ろくろ〉



らん象嵌

川面に写る草木を連想。
女性が持ちやすいように口を
楕円にしている。

佐川秀雄

1943 年 / 千葉県

7.4×8.3×6.5 cm

〈陶 / ろくろ〉



釉裏紅象嵌蕎麦猪口

波文と水鳥をマットな背景に
浮かべてみました。

篠田明子

1962 年 / 長野県

9.0×9.0×6.5 cm

〈磁 / ろくろ・象嵌〉



彩何猪口

ポップな模様が楽しい猪口。
お蕎麦もいけどオン・ザ・ロックにも
使ってみてね!

篠田弘明

1958 年 / 長野県

径 8.3×7.5 cm

〈陶 / ろくろ・化粧土〉



b/w

鑄込みの特性と、泥しう土の表情を
生かして白と黒で表現しました。

白井 渚

1991 年 / 愛知県

8.3×8.3×7.8 cm

〈磁 / 鑄込み〉



瑠璃銀彩器

清らかな水の流れをイメージして
制作しました。

鈴木 彩

1974 年 / 東京都

8.7×8.7×6.2 cm

〈陶 / 銀彩・ろくろ・下絵付〉



山 桜

安曇野の山々に桜がところどころに咲いている。
御影石のため少しゆがみもあるが何とかな。

関 薫

1959 年 / 長野県

5.5×7.7×6.8 cm

〈陶 / ろくろ〉



dot.

シンプルとカラフルをコンセプトに
作成しました。

高橋竜太

1988 年 / 兵庫県

8.5×8.5×7.2 cm

〈陶 / 象嵌〉



petite oreille 小さき耳

深き森、静かなる林、消えゆく空気 たたずむ
美術館。ドアを開けると、目にしたものは
問いかける 小さき耳は何を聞く。
こんなイメージでつくりました。

田原形子

東京都

7.5×7.5×5.2 cm / 6.8×6.8×7.5 cm

〈陶 / ろくろ〉



whirling waves(渦潮)

地元徳島鳴門渦潮をイメージして
作陶しました。

田村栄一郎

1979 年 / 徳島県

8.5×8.5×7.5 cm

〈陶 / ろくろ〉



蒲公英 鬱金香紋そば猪口

春のタンポポとチューリップの花が満開の
様子を、天地どちらからみても楽しめるように
紋様にして作成しました。

釣 光穂

1991 年 / 石川県

9.0×9.0×6.0 cm

〈磁 / 鑄込み・還元焼成〉



練上そば猪口「凜」

安曇野の清らかで美しい大地の中で育ったそばの濃しさを練上の技法を用いて表現しました。

寺澤里美

1969 年 / 長野県

7.8×7.8×6.6 cm

〈陶 / 練り上げ（練り込み）〉



slice

実・花・茎・葉を平面的にし、散りばめました。

徳保美樹

1971 年 / 愛知県

9.5×9.5×6.0 cm

〈陶 / たたら〉



布染め紫陽花文 そば猪口

梅雨時に鮮やかな花色で人の心を和ませる紫陽花を表現しました。

豊島由記子

1962 年 / 神奈川県

径 8.2×6.3 cm

〈磁 / 布染め〉



緋色猪口

優しい色合いと滑らかな手触りを意識して作成しました。

長塚正平

1991 年 / 岐阜県

9.0×9.0×6.5 cm

〈陶 / ろくろ・焼締め〉



Sobaの器 '17

安曇野の湧水に囲まれたわさび畑、そこに舞う蛍を表現しました。

根本達志

1964 年 / 茨城県

8.2×8.2×7.5 cm

〈陶 / 練り込み〉



宙

我々をつつみ込む宇宙の広がりをイメージして作成しました。

裕 敏明

1961 年 / 静岡県

10.3×10.5×8.0 cm

〈陶 / ろくろ〉



実 り

自然の中の植物の実りを表してみました。

花塚哲男

1936 年 / 長野県

8.5×8.5×7.0 cm

〈陶 / 色土貼りつけ〉



月白と藍

内から外へ外から内へ。染付により雰囲気の違いを表したいと思いました。

春田里美

1971 年 / 愛知県

11.0×9.0×6.0 cm

〈磁 / 染め付け・イッチン〉



ふたりのとき

色違いの器で2人気があいいとそばを
食べる姿をイメージして作りました。

比嘉のふみち

1974 年 / 愛知県

8.5×19×7.5 cm

〈陶 / ろくろ〉



新緑の風

新緑と花々が先はじめるのが好き。

樋口健太

1980 年 / 長野県

8.0×8.0×7.7 cm

〈陶 / 練り上げ〉



そばに置いて!!

温かみのある、そばがよりおいしくなるような
器を目指しました。

平田多恵子

1954 年 / 東京都

8.5×8.5×8.0 cm

〈陶 / 白化粧〉



氷裂貫入青瓷蕎麦猪口

釉薬と形の関連性を考えて制作しました。

藤田直樹

1990 年 / 愛知県

8.0×8.5×7.7 cm

〈陶 / 鑄込み〉



青白透眼

光を浴びる事で内側や外側に
光の模様が生れます。

堀 貴春

1996 年 / 石川県

8.5×8.5×7.3 cm

〈磁 / 鑄込み〉



薔薇貫入釉そぼ猪口「光彩の薔薇」

土と釉薬の収縮率の違いを利用し
釉薬でバラの花を咲かせました。

本間友幸

1975 年 / 長野県

9.0×9.0×6.5 cm

〈陶 / 貫入〉



彫地紋そぼ猪口

すべて線を引いて手で彫っています。

南 繁樹

1978 年 / 大阪府

8.2×8.2×6.0 cm / 8.0×8.0×6.0 cm

〈磁 / ろくろ・彫刻〉



太郎と花子のそば器

器の紋様は水に映る空からの光と影。

宮島正志

1953 年 / 東京都

9.5×9.5×7.6 cm / 9.5×9.5×7.6 cm

〈陶 / 象嵌・彩土〉



crossline

線と線の交差が織り成す幾何学模様の美しさを表現しました。

村松道浩

1968 年 / 長野県

8.5×8.5×7.2 cm

〈磁 / ろくろ・上絵〉



酒 酒

水が淀みなく豊かに流れるさまを表現しました。

室井早紀

1995 年 / 京都府

8.5×8.0×7.5 cm

〈陶 / ろくろ〉



RGB そば猪口

子どもの頃はあったけど、今はあまり見られなくなったブラウン管テレビと子どもの私には分からなかった、その当時の色々な物事をイメージしてノスタルジックなものになるよう作りました。

由良薫子

1993 年 / 岐阜県

9.0×9.0×5.8 cm

〈磁 / 上絵〉



金彩そば猪口

想いのままに描きました。

吉岡 遥

1995 年 / 大阪府

7.0×7.0×6.9 cm

〈磁 / ろくろ・上絵・金彩〉



端反蕎麦猪口「研」

ハンサ材をろくろで成形し、外側は拭漆で仕上げ内側は布着せ、錆地、中塗を施した後に黒塗の塗立で仕上げました。

浅賀貴宏

1983 年 / 福井県

10.0×10.0×6.0 cm

〈漆・ハンサ / 拭漆・塗立〉



乾漆蒨醬そば猪口「想」

忘れられない安曇野の景色や人との出会いを想い作品にしました。

石村有弓

岡山県

径 7.6×6.2 cm

〈漆 / 乾漆・きんま〉



沈金鉄仙文そば猪口

鉄仙をモチーフに沈金技法の線彫り、点彫りを使って制作しました。

井戸悠生

1990 年 / 石川県

7.7×7.7×8.0 cm

〈漆・栃・金粉 / 沈金〉



耀 き

安曇野の田園風景の輝きをイメージして制作しました。

伊藤敦欣

1947 年 / 長野県

7.5×7.5×6.5 cm

〈漆・麻紐・金・アルミ箔 / 呂色仕上げ〉



清流そばちょこ

「富士の湧き水の煌めき」と
「夜空の星の瞬き」を表現した。

金刺 愛

1996 年 / 静岡県

8.0×8.0×7.0 cm

〈漆・水目桜・青貝 / 漆塗・螺鈿〉



縄文の風

紐を使い器を作り模様をつけました。
未来に向けて吹き続ける風を
イメージしました。

川田 勉

1978 年 / 香川県

8.3×8.3×7.0 cm

〈漆・縄紐 / 乾漆〉



とらもく 虎杓拭漆そば猪口

思いがけず現れた美しい杓目を活かすよう、
国産の生漆を何度も擦り重ねました。
自然が生み出す美を感じながら、安曇野の
美味しいそばを味わいたいと思い作りました。

高橋りえ

1969 年 / 京都府

径 8.5×7.0 cm

〈漆 / 拭き漆〉



蒼 霞

春日明け頃の霞と月の残光を
イメージしました。

竹森公男

1949 年 / 長野県

8.0×8.0×7.0 cm

〈漆 / 蒔絵・螺鈿〉



雨そそぎ

雨が降る。
ひと粒ひと粒雪が落ちて花が咲くように
模様をつける。

田中若葉

1990 年 / 石川県

7.5×7.5×6.5 cm

〈漆・栃・白蝶貝 / ろくろ・螺鈿〉



新 緑

新緑に映える青もみじの爽やかさを
水辺の輝きと共に表現しました。

谷口元美

1960 年 / 京都府

9.5×6.7×6.5 cm

〈漆・鮎貝・夜光貝・金箔・麻布 / 乾漆螺鈿(ぼかし塗箔絵)〉



ずい う 乾漆猪口 瑞雨

空からさらさらと振りそそぎ
地面を潤す雨の情景

寺口一代

1988 年 / 石川県

8.2×8.2×6.5 cm

〈漆・麻布・和紙・金箔 / 乾漆〉



おいしいそばを食べたい「口」

おいしいそばを食べたいと思うと
こんな口の型になります。

中田 充

1952 年 / 香川県

7.5×11.0×8.0 cm

〈漆・栃 / 朱と黒のぼかし塗り〉



きらめき

そばの特徴と縁起物のイメージから制作しました。

藤原 愛

1992 年 / 石川県

7.0×7.0×6.6 cm

〈漆・麻布・炭粉・白蝶貝・金粉・和光銀・乾漆・螺鈿・蒔絵〉



乾漆錫象嵌「月出蕎麦花如雪」

澄み切った空気。
満天の星と月の明りで川面とそばの花が
雪のように白い。

堀 正敏

1949 年 / 新潟県

7.5×8.0×7.5 cm

〈漆・麻・錫・銅 / 乾漆・錫・象嵌・研ぎ出し〉



蒔絵そば猪口「天平文」

天平時代の宝物にあらわれた文様、
八弁唐花を現代的に表現してみました。

水尻幸太

1980 年 / 石川県

7.5×7.5×7.0 cm

〈漆・档 / 本堅地・蒔絵〉



曙塗そば猪口（オリエントの息吹）

シルクロードに落ちる夕日（曙塗）に
東方の風のような唐草文様を表現しました。

水尻里見

1951 年 / 石川県

8.0×8.0×7.0 cm

〈漆・樺 / 漆ほかし・漆絵・本堅地〉



沈金そば猪口「雲錦」

沈金技法で桜ともみじを
雅びな仕上げにしてみました。

水尻清甫

1954 年 / 石川県

8.5×8.5×7.3 cm

〈漆・档 / 漆塗本堅地・沈金〉



アクシュ

そば猪口と握手。

宮保克行

1980 年 / 福井県

17.0×11.5×7.5 cm

〈漆・板 / 削り物〉



布目市松樺蕎麦猪口「桜霞」

徳島にいだれ桜の花見をした体験を
色漆と錫粉で表現しました。

森 安史

1972 年 / 香川県

8.0×8.0×7.5 cm

〈漆・樺・麻布・錫粉・色漆 / 蒔絵〉



ほころぶ

花びらの重なりを表しました。

横山美穂

1984 年 / 石川県

8.9×8.9×6.6 cm

〈漆・麻布・和紙・ホノノキ / 乾漆〉



流幻金影

土は焼成して陶器になり、漆は素材に塗って漆器となる。陶器に漆を施しました。陶器と漆が融合し独特な風格を持った作品に仕上がっております。

廖家慶

1975 年 / 台湾

10.5×10.5×8 cm

〈漆・京都オパール・金箔・銀丸粉・陶胎紙焼 漆変り塗・貼箔〉



星 空

螺鈿で卵殻をメインにして
星空の様子が表れています。

林彦光

1982 年 / 台湾

7.2×7.6×7.5 cm

〈漆・胚布・卵殻 / 乾漆螺鈿〉



わっぱ猪口

まるで安曇野の川に生えた木々を
切りとったかの様になりました。

太田正明

1987 年 / 神奈川県

8.5×8.5×5.5 cm

〈板屋楓・檜紐・撥水セラミック / 曲木〉



なつめ

棗・反り (OUT. IN)

(左) 棗葉味皿と一体化し
有明山の山頂を表現しました
(右) 反りを内外変えてみました。

小口富雄

1948 年 / 長野県

(左) 8.3×8.3×9.7 cm / (右) 8.0×8.0×9.0 cm

〈桂 / 圧着・削り出しクリア仕上〉



羽 衣

天女の羽衣をイメージして、
光が透けるように薄く軽く作成しました。

高原正勝

1950 年 / 長野県

8.1×8.1×8.5 cm

〈檜葉 / 薄挽ぎ〉



量・金

水染め技法を使って、蕎麦がつけに絡め
られて自由に流れているように、この猪口も
自由でまかして唯一な存在です。

羅琪

1988 年 / 東京都

8.0×8.0×8.5 cm

〈台湾檜 / ろくろ・マーブリング・蜜蝋〉



Circuit

電子回路の近未来感をイメージして
制作しました。

阿部貴史

1985 年 / 神奈川県

7.7×7.7×8.0 cm

〈ガラス / 吹きガラス〉



験の裏に

目をとじた時に浮かぶ記憶や思いを模様
として表現しました。

飯田桜子

1991 年 / 東京都

7.5×7.5×8.5 cm

〈ガラス / 吹きガラス〉



銀市松

新しい技法・表現を作り出したい。

石田 慎

1986 年 / 兵庫県

8.0×8.0×8.0 cm

〈ガラス / 吹きガラス・切子〉



輝鉱石

自然の表情を感じてもらえる物を目指し
製作しました。

石橋和法

1988 年 / 埼玉県

径 8.5×6.0 cm

〈ガラス / 吹きガラス〉



行雲流水

水の恵をテーマに制作しました。

稲田恵理子

1961 年 / 東京都

7.5×7.5×7.0 cm / 7.8×7.8×7.5 cm

〈ガラス / 吹きガラス・リユーター〉



みなも

水のゆらめきを表現しました。

大河内愛美

1994 年 / 愛知県

8.0×8.0×7.5 cm

〈ガラス / 吹きガラス・サンドブラスト〉



空の底から

白い梯子を昇る時
見えてくるのは青い果て。

小川真由子

1988 年 / 東京都

8.5×8.5×7.0 cm

〈ガラス / パートド ヴェール〉



水面の桜

風に舞った桜の花びらがきれいな川の
水面に浮かび漂っている。
そんな春に見た安曇野の情景を
イメージして作成しました。

片倉麻衣

1992 年 / 長野県

7.5×7.5×8.3 cm

〈ガラス / 吹きガラス〉



虹 影

水面に映った虹の影がたゆたうように
表現しています。

勝川夏樹

1991 年 / 茨城県

7.5×7.5×6.5 cm

〈ガラス / 吹きガラス（ロールアップ）・切子〉



記 憶

誰もが鮮烈に残っているであろう光景を
表現しました。

上橋由佳

1980 年 / 長野県

8.0×8.0×7.0 cm

〈ガラス / 吹きガラス〉



宵 蛍

夕空にゆらめき灯る宵蛍。

北形 槇子

1985 年 / 東京都

径 8.0×7.0 cm

〈ガラス / 吹きガラス (カット・サンドブラスト)〉



あじさい

紫陽花の写真を撮った時の印象を器にしました。

金 伯工

1978 年 / 神奈川県

径 9.0×8.5 cm

〈ガラス / 吹きガラス〉



わらび 蕨

春先の芽吹き蕨を描いてみました。

小林 順子

1960 年 / 東京都

8.0×8.5×8.0 cm

〈ガラス / 外被吹きガラス・サンドブラスト〉



氷 砕

氷柱を砕いて器にしたイメージ。

Gori

1983 年 / 神奈川県

7.3×7.3×6.7 cm

〈ガラス / 吹きガラス・カット〉



COLD HAND

素材の変化の過程において凍った液体としてガラスを捉えました。凍てつく冬空の新鮮さをイメージ。手に持った時の重厚感。

ZARAZUA RAFAEL

1985 年 / 兵庫県

〈左〉10.0×5.0×10.5 cm / 〈右〉8.0×7.0×10.0 cm

〈ガラス / solid form glass, free hand〉



夏 椿

可憐で清楚な夏椿をガラスで表現して、初夏の爽やかな風を感じられるような器を制作しました。

白藤 晴久

1965 年 / 滋賀県

7.5×7.5×6.5 cm

〈ガラス / 吹きガラス・サンドブラスト〉



夢 霧

ハイキングで出かけた高原で見た白樺の幹から着想を得ました。白の中につつと浮かぶ黄色、もも色、橙、微かな色のグラデーション。さまざまな彩りの霧が高原に立ちこめ、白樺の幹を染めつけて消えていった。そんな夢想と色合いを作品に込めました。

築館 礼野

1983 年 / 長野県

8.0×8.0×7.5 cm

〈ガラス / 吹きガラス〉



星 河

空にきらめく満天の星空をイメージして作成しました。

中尾 雅一

1977 年 / 福島県

8.0×8.0×6.5 cm

〈ガラス / 吹きガラス〉



水の証

安曇野を流れる透き通った水をイメージして作成しました。

中村里菜

1992 年 / 長野県

7.5×7.5×7.0 cm

(ガラス / 吹きガラス)



涼

水の流れ、そばの花、涼しげな器でそばを味わってほしい。

難波立子

1966 年 / 福島県

8.0×16.0×7.7 cm

(ガラス / 吹きガラス・サンドブラスト)



水の衣

綺麗な水を体に纏うイメージで作成しました。

仁平晴奈

1985 年 / 埼玉県

8.0×8.0×6.5 cm

(ガラス / 吹きガラス)



こもれび

茂った木の葉の間を漏れてさす日の光をイメージして作成しました。

野村 誠

1973 年 / 鹿児島県

7.5×7.5×6.5 cm

(ガラス / 型吹き・ヤット)



円 居

親しい人達と囲んで食べる時の賑わいを色や模様で表現。

深川瑞恵

1994 年 / 愛知県

7.0×8.5×6.5 cm / 7.0×8.0×6.5 cm

(ガラス / 吹きガラス)



夏の氷

青空と緑を冬の氷に留めるイメージで作成しました。

深町史晃

1981 年 / 埼玉県

8.0×8.0×7.5 cm

(ガラス / 吹きガラス)



こたん 徹 潭

山と海の恵、神様に捧げる供物を入れる器のイメージで作成。

福榮徳子

1970 年 / 福岡県

10.3×10.3×6.8 cm / 10.0×10.0×7.3 cm

(ガラス / パートドヴェール)



雪のダンス

雪どけの川の流れをイメージして作成しました。

福本真希

1973 年 / 大阪府

8.8×8.8×7.5 cm

(ガラス / 吹きガラス)



黄昏

夕暮れ時のほかなさと、
その輝きを猪口の中に表現した。

藤田創平

1992 年 / 富山県

10.8×10.8×7.3 cm

(ガラス / 吹きガラス)



暮れ

夕暮れに向かう優しい空を器にしました。

藤原彩葉

1990 年 / 石川県

8.0×8.0×8.5 cm

(ガラス / 吹きガラス・カット)



竹模様

竹林の清涼感やしなやかな美しい竹の
様を器に表しました。

前島千絵

1972 年 / 神奈川県

8.0×8.0×6.5 cm

(ガラス / 吹きガラス)



霞か雲か

残雪から湧き出ずる清流と
そこに立ち込める霞に想いを馳せました。

前出佳与

1976 年 / 兵庫県

8.4×8.4×7.5 cm

(ガラス / コアガラス)



ソバのハナ

可憐なそばの花をモチーフに安曇野に
広がるそば畑をイメージして作りました。
そばだしを入れると、白のラインが
きれいです。

宮司早苗

1971 年 / 神奈川県

8.0×8.0×6.8 cm

(ガラス / 吹きガラス)



アニマルスケープ

安曇野で見た生き物たちを描き込みました。

三好愛音

1992 年 / 長野県

8.0×8.0×8.2 cm

(ガラス / 吹きガラス・サンドブラスト・リユーター)



そば猪口-distortion-

そばつゆを注いぐときに模様が見え方が
変化し美味しさが増すよう、レースグラス
技法を使って制作しました。

森川オサム

1949 年 / 東京都

7.5×7.5×9.0 cm

(ガラス / 吹きガラス)



朝焼け

冬の明け方をイメージして作りました。

山田啓太

1982 年 / 愛知県

9.3×9.3×8.0 cm

(ガラス / 吹きガラス)



花やぐ

そこに存在するだけで場が
花やぐ作品をつくりました。

湯浅明子

1988 年 / 埼玉県

9.0×9.0×7.2 cm
(ガラス / 吹きガラス)



流 水

山に流れている激しい滝をイメージして
作成しました。

吉田直隆

1991 年 / 福島県

7.5×7.5×7.5 cm
(ガラス / 吹きガラス)



夜

陽が落ちた信濃富士の山々の美しさを
2層の色ガラスを削り表現しました。

若色正太

1997 年 / 東京都

8.0×8.0×7.5 cm
(ガラス / 吹きガラス)



水面に写る赤い花

安曇野の美しい水面に写る赤い花を
イメージして作らせて頂きました。

飯島幸子

1947 年 / 長野県

径 9.3×6.5 cm
(銅板 / 七宝焼)



越 冬

安曇野に越冬するため飛来する白鳥を
器にデザインしました。

岡澤治季

1982 年 / 長野県

10.0×10.0×7.0 cm
(銀・銅 / 鍍金・蠟流し)



蠟型铸造猪口「鏡」「鏡」

溶けた蠟の偶然性と金属の固い部分の差異を
楽しんでいただければと思います。

宝田純佳

1995 年 / 新潟県

7.0×7.0×6.0 cm
(錫合金 / 蠟型铸造)



錫流銅猪口「乱泡目」

水底から力強く沸き立つ泡をイメージしながら
制作した。

但馬 敦

1994 年 / 広島県

8.0×8.0×5.5 cm
(銅・錫 / 鍍金・蠟流し・硫化着色)



木曽路の郷と里

木曽路の印象、空気、色、野道など
宿場の家並を思い出しながら作りました。

中村喜久雄

1944 年 / 富山県

8.6×8.6×7 cm / 9.2×9.2×7.6 cm
(砂張・銅 / CO₂ 铸造)

Soba Choko Art

第6回 そば猪口アート公募展

2017年 9月5日(火)~10月9日(月・祝)

休 館 日：9月11日(火)、19日(火)、25日(月)、10月2日(月)

観 覧 料：無料(高橋節郎作品の展示室は有料)

主 催：そば猪口アート展実行委員会、安曇野高橋節郎記念美術館

構成団体：安曇野市、東京藝術大学、安曇野高橋節郎記念美術館友の会、

現代工芸美術家協会長野会、安曇野スタイルネットワーク

協 力：瀬戸市新世紀工芸館、平成記念美術館 ギャラリー、

白鷹町文化交流センター「あゆーむ」

信州安曇野「新そばと食の感謝祭」実行委員会

審 査 会：2017年7月11日(火)、12日(水)

審 査 員：金子賢治、木下五郎、藤田 潤、三田村有純、宮下克彦

募集期間：2017年6月9日(金)~22日(木)(消印有効)

応募点数：210点(応募者数210名)

巡 回 展：

瀬戸市新世紀工芸館

愛知県瀬戸市南仲之切町 81-2

会 期 11月18日(土)~平成30年1月14日(日)

平成記念美術館 ギャラリー

東京都世田谷区桜 3-25-4

会 期 2月

白鷹町文化交流センター あゆーむ

山形県西置賜郡白鷹町大字鮎貝 7331

会 期 3月



安曇野高橋節郎記念美術館

〒399-8302 長野県安曇野市穂高北穂高408番地1 TEL.0263-81-3030 FAX.0263-82-0551
URL: <http://www.city.azumino.nagano.jp/site/setsubi-museum/>

信州安曇野の「そば」は全国的にも名高く、安曇野観光の目的として多くの人に親しまれています。

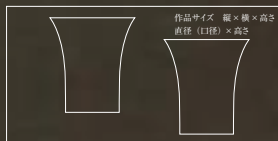
「そば猪口」は、そばを食べる日常的な雑器でありながら、美しい細工が施され、味覚とともに視覚を楽しませる多彩なものとして好まれてきました。

このたびの公募展では、「そば」を食べるに欠かせない仕器「そば猪口」に着目し、広く一般から自作の作品を募集しましたところ、210点の応募作品がありました。その中から厳選した126点の個性あふれる「そば猪口アート」をお楽しみください。

入選者 (50音順)

明石朋実	明石竜太	浅賀貴宏	足立喜子	阿部貴央	飯井幸彦
田嶋悠生	石井宏志	石藤敦	石橋和理	石村之下	井筒美幸
井戸功	伊藤敦	伊藤小	稲田恵	岡澤治	井今真由
江口富雄	大河内愛	小野明	太田雪輝	岡原卓也	小川倉泰
小勝川夏樹	金刺愛	上野明	川田勉	小林順	片倉聖生
勝川槇子	金伯工	栗林みどり	小泉奈津美	ZARAZUA RAFAEL	篠田明
G o r i	坂口禮	佐川秀雄	佐野圭亮	白藤晴久	篠田明
篠田弘明	清水愛	清水美由希	白井正勝	白藤純佳	篠田明
関竹森公	高橋りえ	高橋中一	高谷元美	白藤純佳	篠田明
築館礼野	釣光穂	寺中陽平	寺澤里美	徳保美樹	豊島由記
尾雅一	中田充奈	中根達健	長塚正誠	中村喜久雄	中村里男
難波里美	仁平晴	福本真希	野村多恵	碓井瑞恵	花塚哲史
春福榮徳	比嘉のぶみ	堀本貴春	藤田直樹	深川原千	藤原出司
古川千光	堀水尻幸	宮宮保克	間友清	藤原繁早	宮司安
松島正志	水宮保克	山田啓太	水村松道	南井早	宮司安
森川オサム	山田直	吉田直	湯浅明	由良彦	山美正
吉岡 遥			廖 廖		若 色

凡例



タイトル 名前 生まれ年 / 現住所 (材質 / 技法)
作者コメント



タイトル

作者コメント

名前

生まれ年 / 現住所

作品サイズ 縦 × 横 × 高さ
(材質 / 技法)